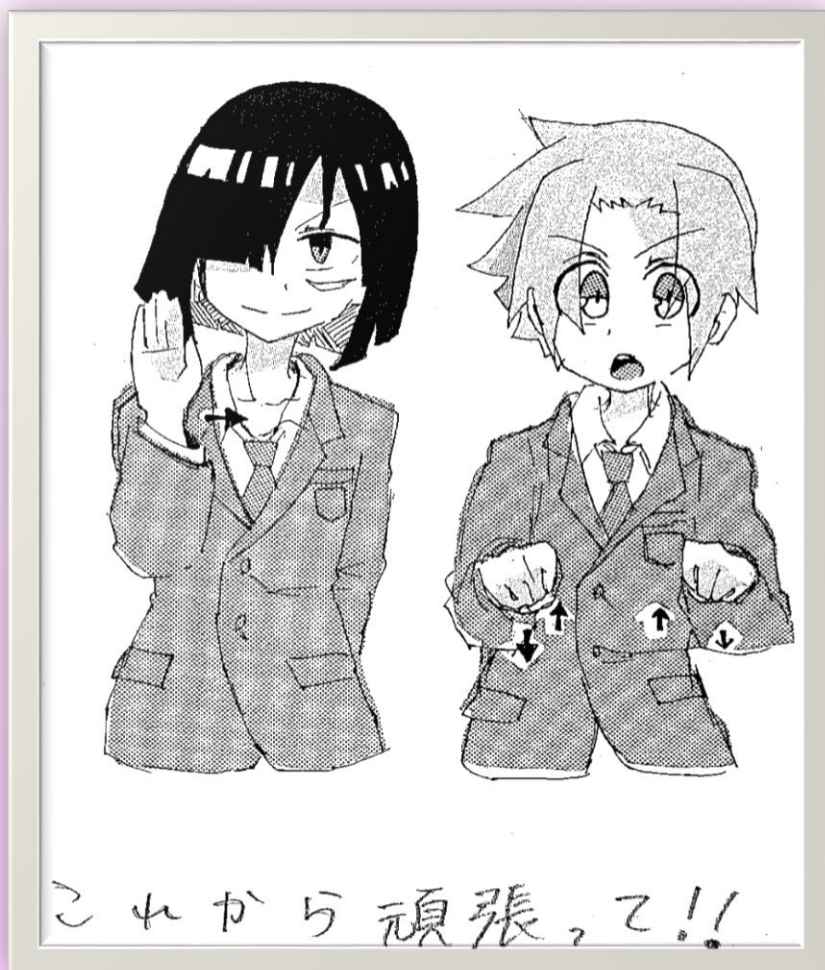
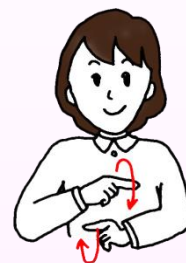


令和2年度県立高等学校・県立中等教育学校における

手話に関する 取組事例集



高校教育課
令和2年12月

はじめに

共生社会の実現を目ざして、平成 27 年 4 月 1 日に神奈川県手話言語条例が施行されました。

この条例は、ろう者とろう者以外の者が、お互いの人権を尊重して意思疎通を行いながら共生することのできる地域社会を実現するため、手話の普及等に関する基本理念を定め、県の責務や県民、事業者の役割を明らかにし、並びに手話の普及に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために定められています。そして、県の責務として手話の普及並びに、手話に関する教育及び学習の振興等を行い、手話を使用しやすい環境を整備すること、また、県民の役割として、手話に対する理解を深めるよう、努めることが求められています。

その趣旨に則って、平成 28 年度から令和 2 年度の 5 年間を見据えて「神奈川県手話推進計画」が策定され、各学校においても、様々な手話に対する理解を深める取組が進んでおります。

本事例集は、令和 2 年 5 月の「手話の取組強化月間」等を中心に資料を提供していただいた学校の協力のもとに作成し、今回で 6 集目になります。

なお、今年度は取組強化月間である 5 月が臨時休業になりましたが、そのような状況下でもオンラインホームルームでの取組等、例年にはない取組報告がありました。また、その中で「手話は声を出して話さないので感染症予防に有効」「オンラインで音声が届いても会話可能」等の生徒の声が報告されました。手話の新たな側面が見いだされたのかもしれませんが。

今後も、本事例集を参考に、各学校の実態に応じて手話に関する積極的な取組の推進をお願いいたします。

令和 2 年 12 月

高校教育課

(表紙 平塚湘風高等学校 コミッククリエーション部)

もくじ

☆手話のあいさつ	1
----------	---

☆授業での取組

1 横浜緑園高等学校 手話Ⅰ・手話Ⅱ	2
2 高浜高等学校 コミュニケーション技術、社会福祉基礎	3
3 小田原高等学校 生活と福祉	4
4 逗子高等学校 現代社会、現代社会研究	5
5 伊勢原高等学校 音楽Ⅰ	6
6 大井高等学校 社会福祉基礎	6
7 吉田島高等学校 生活と福祉	7

☆特別活動での取組

1 城郷高等学校 学年別集会	8
2 麻生高等学校 HRでの取組 ★	9
3 麻生総合高等学校 オンラインHR ★	10
4 上溝南高等学校 Google Meet による朝のSHR ★	11
5 橋本高等学校 福祉委員会・ホームルーム	12
6 厚木東高等学校 Google Classroom にて配信 ★	13
7 山北高等学校 HR 等にて手話ポスターの紹介	14

☆部活動の取組

1 横浜南陵高等学校 社会福祉部 地域連携活動	15
-------------------------	----

☆図書館の展示

1 麻生高等学校 図書館の特集コーナー	16
---------------------	----

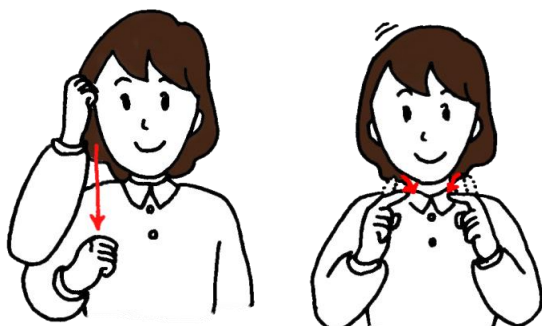
☆その他

1 厚木清南高等学校 LHR及び生徒連絡用電子掲示板	17
----------------------------	----

★はオンラインでの取組

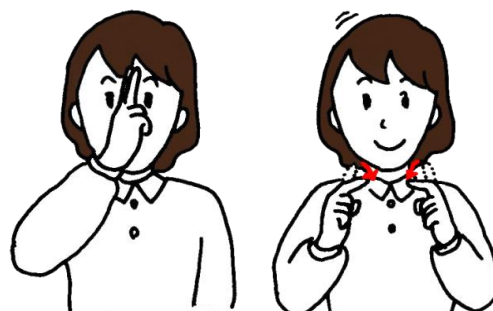
手話のあいさつ

おはよう



「朝」という手話（右手のこぶしを下に下ろす）と「あいさつ」という手話（人差し指を折り曲げる）をあわせます。

こんにちは



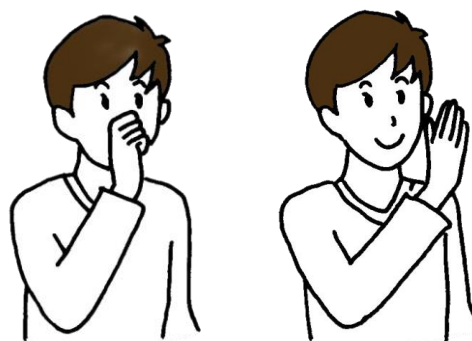
「昼」という手話（指で12時を表す）と「あいさつ」という手話（人差し指を折り曲げる）をあわせます。

ありがとう



左手の手のひらは下向き、右手で一回切るようにします。

よろしくおねがいします



右手のにぎりこぶしを鼻にあて、軽く前を出して、手を開き、前に少し出します。

- 1 実施回数 17回
- 2 対象者 手話Ⅰ・手話Ⅱの選択者90名 延人数1,600人
- 3 実施者 前田 房代（福祉科講師）
- 4 実施内容
 - 聴覚障がい者の基礎知識（理論）について
 - 映像学習・テキスト学習・実技、体験学習
 - ゲストティーチャーに聴覚障がい者を招く
 - 評価の観点
 - （1）関心をもって授業に臨み、積極的に取り組むことができたか。
 - （2）聴覚障がいへの関わりについて積極的に考えることができたか。
 - （3）手話による表現、発表、会話ができるようになったか。
 - （4）聴覚障がい、手話に関する基礎的な知識を習得し、聴覚障がいについて理解することができたか。
- 5 生徒の感想等
 - ・神奈川県手話言語条例のことや手話が言語であるということを知り、この機会に手話を学んで今後の活動や仕事に活かしていきたい。
 - ・もっとスキルを磨きたい。
 - ・聴覚障がい者の方に対して思い切って表現できるようになった。
- 6 成果・課題
 - 回数は少ないが、技能面は着実にアップしている。また聴覚障がい者に関わる知識が増え、この知識を基にさらにいろいろなことを知り、今後積極的に関わっていけるよう取り組んでいきたい。
- 7 手話の取組強化月間以外の取組
 - 学校説明会において、来場者に対しての手話通訳を手話履修者の代表が行った。（10月、12月）

▼数字を表現する手話を学んでいます。

数字、あいさつ、シチュエーション…、学ぶことは無限です。



1 実施回数 コミュニケーション技術（通年）、社会福祉基礎（2時間）

2 対象者 3学年（選択科目）

3 実施者 本校非常勤講師および教諭

4 実施内容

【コミュニケーション技術】

聴覚障がい者の方が講師となり、日本語表現と手話表現の違いを理解しながら、手話の実践を通して生徒同士もしくは生徒と教員でのコミュニケーションを実践した。聴覚障がい者の状況を理解し、さまざまな手段を用いてコミュニケーションを図ろうとしていた。

【社会福祉基礎】

手話の実践と同時に、同じ口の動き（例：「たまご」「たばこ」「なまこ」）に対して、どのような動きや説明を加えれば聴覚障がい者に伝わるのか考える授業を実践した。

5 生徒の感想等

- ・実際に日常で使用している人（聴覚障がい者）に手話が通じた時の喜びが大きかった。
- ・手話は自分で伝えるだけでなく、読み取ることや表情も大切だと感じた。
- ・手話が分からなくても、その言葉をイメージしてみると、それが手話だったりして驚いた。

6 成果・課題

- ・手話を言葉として活用している人がいることが理解できた。
- ・手話が分からなくても、手話やジェスチャーなどさまざまな方法を考えることが、生徒にとってコミュニケーションの幅を広げることにつながった。

7 手話の取組強化月間以外の取組

- ・授業：コミュニケーション技術（通年）
- ・課外活動：手話コミュニケーション部の活動（通年）

- 1 実施回数 2回
- 2 対象者 「生活と福祉」選択者（定時制4年次）
- 3 実施者 佐古 広子（家庭科教諭）
- 4 実施内容
 - ・臨時休業期間中の課題として、簡単な挨拶と指文字のイラストをプリントに表示して、自分の名前の表現方法を考えさせた。（知識・理解）（思考・判断・表現）
 - ・手話を学んでみよう！【指文字・数字編】【手話実技編】（かなちゃんTV）を視聴しながら、実演と一緒に基本的な手話の表現に取り組んだ。（関心・意欲・態度）
 - ・授業の始めに、手話で簡単な挨拶や自己紹介をさせた。（技能）
- 5 生徒の感想等
 - ・手話はむずかしそうだったが、実際にやってみると意外と覚えやすく面白かった。
 - ・話をする手段が言葉だけでなく、こんな表現を手を使ってできるんだと初めて知った。
- 6 成果・課題
 - 選択教科で少人数での取り組みだったが、生徒同士で基本的な挨拶や自己紹介をすることで、手話を身近に感じられたようだ。

▼手話で自己紹介

授業の始めに、手話で挨拶をしてから、自分の名前を表現しました。



- 1 実施回数 1回／1週～2週
- 2 対象者 現代社会（2学年 118人）、現代社会研究（3学年 55人）
- 3 実施者 藤井 光葉（地歴・公民科教諭）
- 4 実施内容
 - ・あいさつ、日常的なマナーにかかわる表現について教師が見本を示し、生徒が練習した。
 - ・かんたんな単語、数字などの表現にも触れた。
 - ・手話を使っての自己紹介など、生徒同士の対話をおこなった。
- 5 生徒の感想等
 - ・手話に初めて触れて、とても新鮮で興味がわいた。
 - ・楽しい。以前から興味があったので、授業でできてよかった。
 - ・おしゃべりをしないで会話できるので、今の時代にあっていると思った。
 - ・人前に出ておこなうのは苦手だけど、やってみると意外とうまくできてうれしかった。
 - ・聴覚障がいの人はいたいへんだと思う。
 - ・いつも手話でやりとりしているなんて素敵だな。
- 6 成果・課題

手話に触れ、親しむ、という目的をおおむね達成できている。今後はさらに機会をとらえて、生徒同士の対話形式で日常的な会話の練習をしてみたい。
- 7 手話の取組強化月間以外の取組

50分授業の導入、あるいはまとめの時間帯で実施している。手話は継続してくりかえし練習しないと身につかないので、短時間でも1週か2週に一度、実施するよう心がけている。

言語のひとつである手話に親しむとともに、インクルージョン（包摂・共生）の視点をもって取り組んでいきたい。



▲自分の名前を指文字で表現



▲「やあ、みなさん、こんにちは！」



▲となりの仲間とペアになって自己紹介



▲練習の成果をみんなに披露

授業
5

伊勢原高等学校 音楽Ⅰ

- 1 実施回数 各クラス授業 10 回程度
- 2 対象者 1 年生音楽選択者
- 3 実施者 福島 克己（音楽科教諭）
- 4 実施内容
 - ・簡単な挨拶や指文字を覚え、「翼をください」「世界に一つだけの花」を手話を付けて歌う。
 - ・感染症対策で大きな声を控える状況において、手話を音楽表現の一つとして取り入れたところ、生徒は表情豊かに歌っていた。（観点：音楽表現の創意工夫）参考資料：神奈川県HP 動画 高校生による「手話を楽しく学ぼう！」
- 5 生徒の感想等
 - ・歌詞の意味に手話の形が合うのが面白い。
 - ・楽しく手話を覚えられた。
 - ・機会があれば手話を使いたい。
- 6 成果・課題
慣れ親しんだ歌と初めて体験する手話との組み合わせで手話の表現力を実感し、手話を身近なものとして捉えるようになった。
- 7 手話の取組強化月間以外の取組
ボランティア委員等に手話の講習を行い、各HRで講師として手話のミニ講座を担ってもらう。（3学期）

授業
6

大井高等学校 社会福祉基礎

- 1 実施回数 1 学期各クラス 1 回
- 2 対象者 社会福祉基礎履修生徒 61 名
- 3 実施者 本校職員
- 4 実施内容
 - ・挨拶
 - ・耳の不自由な人の状況を理解すること。

〔関心・意欲・態度〕聴覚障がい、手話について関心を持ち、手話に主体的に取り組んでいる。
〔思考・判断・表現〕手話の意味について考え、判断・表現している。
〔知識・理解〕手話に関する基礎的な知識を身につけ、活用している。
- 5 生徒の感想等
 - ・普通の授業で学んだことを実践できるので、意欲的に取り組むことができた。
 - ・楽しく積極的に学ぶことができた。
- 6 成果・課題
新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら、相手に伝わるような手話の理解を深めていくことが必要である。
- 7 手話の取組強化月間以外の取組
（通 年） 社会福祉基礎の授業の中で手話を学ぶ
（2 学期） 神奈川聴覚障害者協会講師を招き手話を学ぶ

1 実施回数 2回**2 対象者** 生活科学科の生徒**3 実施者** 生活科学科の教諭**4 実施内容**

臨時休業中に「手話を楽しく学ぼう」を参考にして、おはよう、こんにちは、ありがとうなどの簡単なあいさつができるよう覚えてくることを課題とした。

「生活と福祉」の授業で、臨時休業中に覚えた手話であいさつをする機会を設けた。観点は技能で評価した。

5 生徒の感想等

- ・手話を楽しみながらおぼえることができた。
- ・手話だけでなく様々なことを学んでコミュニケーションの力をつけたい。

6 成果・課題

手話はコミュニケーションのツールの一つであり、手話以外でもコミュニケーションをとることは出来ることを伝えた。様々な関わり方を自ら考えることができる力を身に付けさせたい。

7 手話の取組強化月間以外の取組

社会福祉法人 開成町社会福祉協議会にお願いし、手話サークル「かたつむり」の方を講師に迎えて手話を実践的に活用できるような機会を設ける。

特別活動

1

城郷高等学校 学年別集会

- 1 実施回数 各学年2回（午前・午後に分けて実施）×2学年＝計4回
- 2 対象者 1・2年生徒 約600名
- 3 実施者 校長
- 4 実施内容
校長挨拶を手話で行った後、簡単な手話講座を実施した。
- 5 生徒の感想等
生徒は興味深く手話の実践に取り組んでいた。
- 6 成果・課題
 - ・生徒の興味関心を呼び起こす一定の成果はあった。
 - ・今年度は時間的・空間的にも様々な制約があり、機会を設けることが困難であった。
単発の企画にとどまることなく、継続的な取り組みに高めていきたい。
- 7 手話の取組強化月間以外の取組
 - ①入学式の「開式のことば」「閉式のことば」を、簡略な手話を交えて行った（副校長）
(4月)
 - ②校長による手話講座（前項にて報告）
(6月)
 - ③中学1・2年生対象「特別募集説明会」にて手話通訳
(11月)

▼校長による「手話講座」の様子

長い休業期間を終え、分散登校が始まった6月、各学年とも十分なスペースをとって、始業式代わりの学年集会を開催した。

「大声で元気にあいさつ」することも控えなければならない状況下、校長より「では声を出さずにあいさつをしましょう」と呼びかけが行われ、「おはようございます」「おやすみなさい」等、様々なシチュエーションでのあいさつを実演・解説した。

「インクルーシブ教育実践推進校」としてのスタートにあたり、「共生社会」の理念を述べつつ行われた「手話講座」として、短いながらも意義深い時間となった。



< 6月3日 1年生学年集会での様子 >

- 1 実施回数 1回
- 2 対象者 全生徒
- 3 実施者 クラス担任
- 4 実施内容

毎年5月に発行している「手話通信」の令和2年度版を、生徒会指導グループで作成した。5月は臨時休業中であったため、各クラスの担任がGoogle Classroomに手話通信を掲載した。手話通信は神奈川県 HP に掲載されている手話動画を紹介する等、生徒が自宅からでも手話を学べる内容とした。また保護者・生徒が共に学べるよう、学校 HP・マチコミにも併せて掲載した。

- 5 生徒の感想等

手話通信を掲載したのは臨時休業期間中であったため、生徒から直接感想を聞くことはできなかった。

- 6 成果・課題

今年度は対面による指導を行うことはできなかったが、Google Classroom や学校 HP 等への掲載により、各々がじっくり手話に取り組む機会を設けることができた。一方で、実際に手話に取り組んでみた生徒の反応を得ることはできず、Google Classroom のコメント欄で感想を記入してもらう等、更なる工夫が必要であると感じた。

▼自宅で手話を学ぼう

手話通信

令和2年5月
年1回発行

麻生高等学校
生徒会指導グループ

神奈川県では、県民や事業者などみんながお互いを大切にし、支えあう社会を目指し、平成27年4月に「神奈川県手話言語条例」を施行、平成28年3月に「神奈川県手話推進計画」を策定しました。麻生高校でも、毎年5月は「手話の取組強化月間」として、皆さんに手話について知ってもらえるように手話通信を発行しています。今回は「自宅で学ぶ手話」をテーマに、家からでも手話について学べるサイトを紹介しします。新型コロナウイルスの影響で外に出られない日が続いていると思いますが、お家で過ごす時間が多いこの機会にこそ、ぜひ手話に触れてみてください。

自宅で学ぶ手話 ～インターネットで調べてみよう～

神奈川県教育委員会高校教育課
HP「手話に関する情報」
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/d4c4/cnt/f533708/>

リーフレット「手話を楽しく学ぼう！」や高校生による手話の動画（「覚えていたらいい単語」、「都道府県」）を見ることができます。

★こんなサイトもあります★

- ・神奈川県福祉子どもみらい局福祉部地域福祉課 HP「神奈川県手話学習用冊子・動画」
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/n7j/cnt/f537527/p1192626>
- ・神奈川県聴覚障害者福祉センターHP「動画配信」
<http://www.kanagawa-wad.jp/streaming.html>



動画を見ながらだと、楽しく簡単に手話を覚えることができます。ぜひ試してみてください。

手話にまつわる本

麻生高校図書館で所蔵している手話の本を紹介しします。



『聲の形 1～7巻』

大今良時／著 講談社
耳の聞こえないクラスメイトとの関わりを描いたマンガです。映画化もしました。

『手話の絵事典』

社会福祉法人全国手話研修センター／監修 PHP 研究所
日常生活や学校生活で使われる手話をイラストでわかりやすく解説。初心者におすすめの一冊です。

『手話通訳者になろう』

木村晴美・岡典栄／著 白水社
さまざまな分野で活躍する手話通訳者たちの声を通して、手話や手話通訳の魅力を知ることができる本です。

『手話を生きる』

斉藤道雄／著 みすず書房
日本語と手話のバイリンガル教育について書かれた作品です。手話も一つの言語であるということに気づかせてくれます。

『誰でも手話リングル』

松森果林／著 明治書院
聞こえる・聞こえない関係なく、幅広いコミュニケーションを楽しめる「手話リングル」を目指す本です。著者自身の経験談も交えながら、丁寧に解説してくれます。

『手話単語力アップ3週間プログラム』

谷千春／監修 主婦の友社
3週間で楽しく基本単語がマスターできる手話本です。『涙そうそう』『上をむいて歩こう』など人気の歌も手話で表現できるようになります。



麻生高校図書館では手話に関する資料の展示を行っています。上で紹介した本はもちろん、神奈川県が発行した手話のリーフレット、麻生高校の手話通信バックナンバー、手話に関連するチラシ等も見ることができます。学校が再開した際には、ぜひ見に来てください。

- 1 実施回数 各年次各HRクラス2回ずつ
- 2 対象者 各年次各HRクラス生徒
- 3 実施者 各年次各HRクラス担任
- 4 実施内容

5月中に行うオンラインHRで手話による朝の挨拶を行うとともに、手話に対するアンケートを実施し生徒に月間中の取組みを振り返らせる。そのことで生徒の手話に対する意識を高めさせたり、さらに学ぶ意欲や機会を持たせたりすることに資する。

5 生徒の感想等

- ・まだ挨拶等しかしていないので他の手話や、手話の大切さがどれほど大きいのかも学びたいと思う。
- ・障がいのある人達と話ができるとても素晴らしい会話の一つなので、覚えて実際に話したいと思いました。
- ・普段使わないから実際には上手くコミュニケーションがとれないかと思いました。
- ・手話に触れる機会を増やしたり、障がいのある方との接し方を考えたりしていきたいです。
- ・いろんな手の動きで会話ができることに驚いた。少しでも覚えていれば耳の不自由な方に優しくできると思いました。
- ・障がいがあってしゃべれない人がどんな気持ちで手話を使っているか、少しでも実感したと思います。
- ・今回の手話取組強化月間で今まで気にもしなかった手話の必要性や大事さを考えられたと思う。この機に手話を勉強することは、様々な場所で役立てられたり視野が広がったりするので大事ななと思った。
- ・アルバイトで接客業をしているので、手話が必要になった場合参考にしたいと思いました。
- ・外出しなかったので実践する機会はなかったが、この先手話で会話できる人と出会うかもしれないので、手話月間は一つの伝え方として手話を勉強するきっかけとしてよい機会だと感じた。

6 成果・課題

手話に対してこれまでの学習経験に違いのある生徒それぞれに、あらためて手話の重要性や多様な存在を認め合い、ともに生きることの重要性を認識させることができた。手話に関しては、より実践的な内容をいかに学ばせるのかについての検討が必要である。

7 手話の取組強化月間以外の取組

<合唱部対象手話講習会>

12月2日(水)の職員向け県主催手話講習を受講した本校職員が講師となり、合唱部生徒を対象に基礎的な手話講習会を開催した。現在、合唱部では手話を取り入れた合唱にチャレンジしており、ペアで自己紹介をしあったり「コロナウイルス感染」に関する手話等にも触れたりしながら、手話による歌の表現という課題解決に向けた活動に役立てることができた。さらに、耳の不自由な方には口の動きでも内容が伝わることや、スマートフォンなどを用いた筆談等も話題にしながら、町で困っている人を見かけた際に役立ててほしいこと等を学んだ。



- 1 実施回数 3日間
- 2 対象者 全校生徒
- 3 実施者 福祉特別委員会
- 4 実施内容
「手話あいさつ週間」
期間：5月25日(月)の週のうち3日間
具体的な内容：
(1) Google Meet を利用したオンラインSHRで「おはようございます」の手話を紹介する。
(2) 初日は担任・副担任のレクチャーに合わせて、クラス内で1、2回練習する。
(3) 2日目以降は、毎朝のあいさつで使用する。

5 生徒の感想等

オンラインで手話を学び、新鮮だった。学校が再開したら、学校行事などで手話を使った活動をしてみたい。また、先生の話聞き、手話でコミュニケーションをとることがますます重要になっていることを知り、これからも関心を持っていきたいと感じた。

6 成果・課題

休業中であっても、ICTの活用により例年通り「手話あいさつ週間」を行うことができた。福祉特別委員会を中心に、さらに発展した活動を行ってほしい。

7 手話の取組強化月間以外の取組

地域連携事業として、毎年11月にJR橋本駅や近隣の自治会などと「バンダパンダまつり」を行っている。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため学校を会場にしたまつりは開催せず、校外で撮影した動画をHPで配信した。動画の締めくくりでは本校オリジナル曲「僕らの番田」を、手話を交えて参加団体の方々と生徒のリレー形式で歌っている。(写真は昨年度のもの)

学校HP：

<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/kamimizominami-h/tokushoku/bandapanda.html>

▼手話を交えて「僕らの番田」を歌っているところです。



1 実施回数 2回（委員会1回 ホームルーム1回）

2 対象者 全校生徒

3 実施者 福祉委員の生徒（各クラス）

4 実施内容

福祉委員の生徒対象に手話講習会を行い、後日、福祉委員の生徒が中心となり、各クラスのホームルームにて、手話講座を実施した。

手話について理解を深めると共に、マスクしたまま、挨拶ができる等、普段から手話を使うことを推奨・提案し、生徒全員で、挨拶に関する手話を練習した。

今後は、休業期間であった5月に実施予定していた毎年開催している福祉委員会の生徒と希望生徒対象の手話講習会を開催し、さらに多くの手話を全校生徒に教える機会を複数回実施する予定である。

5 生徒の感想等

手話には、とても興味を持っていました。今回、全校生徒に福祉委員から挨拶の手話を紹介すると周囲に話すと、楽しみにしてくれる友人が結構いました。実際にやってみると、クラスメートの多くが興味深く取り組んでいて嬉しくなりました。これからも色々な方法で手話を広めていきたいと思います。

6 成果・課題

生徒が主体となって実施したことで、手話についての理解を深めることができたと感じている。

毎年開催している手話講習会も含め、継続的に実施していくことを考えている。

7 手話の取組強化月間以外の取組

今年度中

- ・手話への興味関心を高め、活用しやすくするために、会話に役立つ手話表現のポスターを作成し、廊下や職員室等の複数個所に掲示した。

- ・休業期間であった5月に実施予定していた福祉委員会の生徒と希望生徒対象の手話講習会を、今年度中に実施し、手話を学ぶと共に手話について理解を深める機会を生徒に提供する予定である。

- ・全校集会や職員会議、PTAの運営委員会等において、校長挨拶の時に毎回手話を取り入れた挨拶を実施している。



手話表現の掲示物



手話講習会



校長による挨拶

1 実施回数 1回**2 対象者** 福祉委員及び全校生徒**3 実施者** 生徒活動支援グループ 生徒福祉委員会**4 実施内容**

①参考動画を視聴して手話について学ぶ

YouTube のかなチャン TV（神奈川県公式）チャンネルの動画「手話を楽しく学ぼう！～手話ってなに？～」を視聴して、各自で手話の基礎を学ぶ。

②参考動画を視聴して基本的な手話を実践

上記と同じく、かなチャンTV「手話を楽しく学ぼう！1 手話によるあいさつ」を視聴して、手話のあいさつ（おはよう、こんにちは、こんばんは、ありがとう、ごめんなさい、よろしくお願ひします等）をマスターした。

③手話リーフレットを活用して自己紹介を習得した。

5 生徒の感想等

- ただ紙面で見ただけでなく、動画があることで実践しやすかった。（委員生徒）
- Google Classroom での取組だったので、家族と一緒に学習することができて交流が出来た。（生徒）

6 成果・課題

動画での取組は初めてだったが反応も良く、実践もしやすかったので非常によい経験になったと思う。今後も、継続していくことが課題だと思われる。

- 1 実施回数 1回
- 2 対象者 全生徒
- 3 実施者 山本 和貴（国語科教諭）
- 4 実施内容

手話を紹介するポスターを作成し、各クラス及び廊下に掲示した。手話による挨拶（おはよう、こんにちは）の仕方を説明するポスターをHR等で活用し、生徒の手話に対する興味関心を持たせた。

また、学習教材「手話を楽しく学ぼう！」リーフレットを新入生へ配付して、手話の啓発活動を行った。健常者にとっては、異文化理解から世界観を広げることで思いやりの心を持てるような指導に繋がった。

- 5 生徒の感想等

分かりやすいポスターで手話に親しみを覚えた。

- 6 成果・課題

簡単な挨拶の方法を知るきっかけになった。本校の生徒はほとんど手話を使えないが、コミュニケーションが必要な時にまずは挨拶が表現できるように指導をしたい。

▼手話あいさつポスター（おはよう・こんにちは）



部活動

1

横浜南陵高等学校 社会福祉部

- 1 実施回数 12
- 2 対象者 部員
- 3 実施者 部活動インストラクター
- 4 実施内容
 - ・地域連携活動（昨年実施例：高文連開・閉会式、地域防災訓練、かなチャンTVにおける県広報活動、隣接する日野中央高等特別支援学校の学校行事（文化祭）における手話通訳、手話動画出演・手話ソング披露などの手話の普及活動が行えるように、専門家（部活動インストラクター）の指導による準備を行った。
- 5 生徒の感想等
 - ・「かながわ憲章」や防災関連用語など多岐にわたる専門用語を手話で表わすことで表現力が育成された。
- 6 成果・課題
 - ・特に高文連における手話通訳活動は、神奈川県が手話をとおして共生社会の醸成を目指していることに貢献できている。
- 7 手話の取組強化月間以外の取組
 - ・職員対象の手話講習会を実施。社会福祉部員が講師となり、本校校歌の手話ソングを学び、教職員の福祉マインド育成を図る。（10月16日）

▼手話講習会の様子



1 実施回数 7月～9月

2 対象者 全生徒

3 実施者 司書

4 実施内容

臨時休業終了後、校内の図書館において手話に関する資料を展示した特集コーナーを設置した。図書館で所蔵している本や神奈川県で発行しているパンフレット等を展示し、生徒が自由に手に取れるようにした。手話通信で特集コーナーの宣伝を行った。

5 生徒の感想等

- ・展示されている本を読んだ生徒が、友達にすすめる姿が見られた。
- ・展示本以外で手話をテーマにした本が読みたいという生徒がいた。

6 成果・課題

図書館で展示を行った本はよく手に取られ、貸出も多かった。小説や絵本を通して学ぶことで手話を身近に感じるようになった様子だった。一方で、今回は臨時休業期間中だったため教室での手話紹介を行うことができず、図書館にあまり来ない生徒への周知が足りなかった。

今後はより多くの生徒が手話への理解を深められるよう、校内全体で取り組んでいきたい。

▼図書館で手話をもっと身近に



- 1 **実施回数** LHR: 1回 / 生徒連絡用電子掲示板: 15回 (6月8日~6月26日の期間 毎日)
- 2 **対象者** 定時制1年次~4年次
- 3 **実施者** LHR: 担任 / 生徒連絡用電子掲示板: 日直
- 4 **実施内容**
手話冊子を活用し、手話を身近に感じられるよう担任から指導を行った。なお、今年度は、臨時休業期間の関係で6月に実施した。また、6月には生徒連絡用電子掲示板に手話の内容を盛り込むようにして、意識付けを行った。
- 5 **生徒の感想等**
 - ・手話に興味を持った。
 - ・手話を覚えるきっかけとなった。
 - ・手話は顔の表情も含めて読み取ろうとすると理解し易くなることが分かった。
- 6 **成果・課題**
エントランスに映し出された映像を見ながら登校するので、意識づけはしっかりと行われた。今後は、実際に実演する機会をどう設定するかが課題となる。

▼生徒連絡用電子掲示板

(生徒インフォメーション・システム)

本校2階のエントランス壁面にプロジェクターを投影し、授業日程や行事などについて毎日生徒に情報を発信している。授業規律など生徒に意識づけさせたいことなども盛り込んでおり、手話月間には、手話のスライドを何枚か映し、手話に関心を持たせるように取り組んでいる。



発 行	令和2年12月25日
編 集 者	神奈川県教育委員会教育局指導部 高校教育課長 増田 年克
発 行 者	神奈川県教育委員会 〒231-8509 横浜市中区日本大通33 TEL (045)210-1111 内線8260